

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム（A）】

受託団体名 地球っ子プロジェクト

1. 事業名称 子ども日本語教室開催 及び カリキュラムの実践研究

2. 事業の目的 「子ども日本語教室」を開催し、外国人児童生徒（日本語を母語としない児童生徒）が、よりはやく日本の生活に慣れ、学校生活や、地域社会に参加できるよう日本語学習の支援を行う。指導者は、通常の活動に加え、標準的なカリキュラム案を「年少者のための生活日本語」に応用し、より効果的に目標が達成できるよう、実践をしながら、指導内容を研究し、教材を作成する

3. 事業内容の概要

毎週土曜日の午前、子ども日本語教室を開催し日本語指導を行う。本務である来日直後の日本語初期指導に加え、標準的なカリキュラム案を用い、年少者を対象とした生活日本語習得のためのカリキュラムと教材を作成し、それを用いた指導を行う。夏・冬休み教室は市内公開とし、日本人児童生徒の参加を呼びかけ、自然な形での交流、社会参加の実践の場となるよう活動型学習を行う。指導者は研修、実習を行い、専門家、コーディネーターのアドバイスを得ながら業務を実施する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】文化庁事業を受託して5年目になる今年度は、当会の自立発展に向けて具体的な計画を立てる年と位置づけた。これまでの教育委員会、日本語指導の専門家に加え、国際交流協会からも委員を依頼し、具体策を検討した。また指導・支援内容に関しては、地域社会で生活できるための日本語指導を目標として、標準的なカリキュラム案を学ぶための研修を齋藤ひろみ教授にお願いした。

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成24年9月10日 11:00~12:15	1時間15分	船橋市役所 教育相談室	正本靖子、掛村利弘、 浦和かほる、松川京子、 滝沢孝子、橋本真由美	1) 地球っ子プロジェクト発足の経緯の説明 2) 子ども日本語教室の現状、夏休み教室の結果を報告 3) 今年度の事業計画の説明 4) 教室の設置運営に関する検討	(1) 地球っ子プロジェクトより提案：子ども日本語教室は継続的な日本語支援の実践の場である。当会発足の理由としてあげられた学校派遣協力の員数の要望である「ノウハウの蓄積」のために当会の定期活動は、意義のある活動だと考えている。今後当会を場所、運営費の面で手当てしてくれる母体を探したい。(2) 教育委員会より回答：学校外の活動であるので、教委の事業にはならないが、転入生に地域の支援団体として引き続きパンフレットで紹介することはできる。(3) 国際交流協会より回答：今後協会との話し合いの場を設ける。
2	平成24年9月25日 14:00~16:00	2時間	船橋市東部公民館 地区社協室	齋藤ひろみ、大根和子、 松川京子、安部恵美子、 野村則子、山野陽子	1) 子ども日本語教室の現状、夏休み教室の結果を報告 2) 「第一回地球っ子プロジェクト運営委員会の報告」 3) 今年度の事業計画、文化庁委託事業の説明 4) 人材育成・研修、教材作成に関する計画について	(1) すでに実施した夏休み教室の内容、当会スタッフの勉強会で提案された内容について検討し、必要な研修内容と日程及び、教材内容を検討する。(2) 専門家である齋藤ひろみ委員、大根和子委員の役割について確認した。 齋藤委員：カリキュラム作成および教材作成についての研修会を実施し、作成したカリキュラム・教材について助言する。大根委員：作成したカリキュラムと教材を試行する時に教室の活動を参観し、感想・助言をする。(3) 現在のプランについて共通理解を図った。(4) 今後の進め方について確認した。齋藤委員よりカリキュラムのフォーマットの例が示された。
3	平成25年2月1日 11:00~12:00	1時間	船橋市役所 教育委員会指導課	正本靖子、大根和子、日 野隆、浦和かほる、松川 京子、安部恵美子	1) 今年度の活動実績報告 2) 平成25年2月時点の現状報告 3) 今後の課題 4) 外部委員より感想、提言	(1) 出版物への寄稿、掲載等が3件（『日本語教育ジャーナル』『イマ×ココ』『千葉県における多文化共生のまちづくり』）あり、当会の活動を、より多くの人たちに知ってもらう機会を得ることができた。(2) 文化庁委託事業の『標準的なカリキュラム案』を用いた教材作りに関して、齋藤ひろみ教授に2回研修をしていただいたことで、場面型タスクについての理解が深まった。(3) 当会より、来年度は国際交流協会に入会したい意向を示した。日野委員より、当会の活動内容は協会の趣旨に合うものであり、今後協会内の会議に随っていく旨話があった。今後協会に外国人会員を増やす意味でも、協働していく意味があるとの意見をいただいた。



【写真】

5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称 地域支援者の特徴を生かした「子ども日本語教室」の運営

(2) 目的・目標

「子ども日本語教室」を開催し、外国人児童生徒（日本語を母語としない児童生徒）が、より早く日本の生活に慣れ、学校生活や、地域社会に参加できるよう日本語学習の支援を行う。その中で1) 言語活動を通して考える力を育む2) 個人教授ではなくグループでの学習により、他者とのコミュニケーションの場を提供し、生活について情報を得る力、友人との関係を作る力、自己表現する力、安全で健康な生活を送る力を育む、を目標とする。

(3) 対象者 原則として船橋市内在住の小中学生

(4) 開催時間数(回数) 58時間中当該委託業務として行う時間 29時間(全 29回)

(5) 使用した教材・リソース 標準的なカリキュラム案、JSL カリキュラム、『DVDで学ぶ日本語エリンが挑戦!にほんごできます。』『にほんごをまなぼう』『こどものにほんご』『絵でわかるかんたん漢字シリーズ』『ひろこさんのたのしいにほんご』、小中学校教科書、市役所こどもホームページ、など

(6) 受講者の総数 46人

(出身・国籍別内訳 中国 24人、フィリピン 13人、ベトナム 2人、タイ 2人、ウクライナ、パキスタン、アメリカ、バングラデッシュ、ボリビア 各1人)
他、夏休み教室外部参加者 7人(中国 2人、モンゴル 2人、ベトナム 2人)
冬休み教室外部参加者 25人(日本 25人)

(7) 受講者の募集方法

教育委員会学務課の転入窓口で、市内小中学校への日本語指導を希望する転入生(保護者)に案内チラシを配布してもらった。国際交流協会事務局にチラシを置き、問い合わせに応じてもらった。教育委員会事業である、小中学校の国際理解担当教員のための研修会で時間をもらい、当会の活動を説明した。また学校派遣日本語指導協力員対象の研修会でも、当会の案内をした。

募集チラシ(片面添付、裏面に中国語、韓国語、タガログ語、ロシア語、タイ語、ポルトガル語)

英語

When: Every Saturday morning 9:45a.m.-11:45p.m.
Where: Toobu Koominkan 2F
Fee: 500 yen /mo./family and 800yen for insurance per person/year
Age: Elementary school to Junior highschool student
Application: Write the followings and fax Toobu Koominkan 047-477-7172 Children's names, age(grade), nationality, native language, parent's name, address, and phone
*Elementary school children must be attended with a guardian.
Inquiry: Chairman of Chikyuko Project Ms.URAWA, Khoru047-468-2948

スペイン語

Curso de japonés para niños

Fecha: Todos los sábados
Horario: 9:45a.m.~11:45a.m.
Lugar: Toobu Koominkan 1er piso
Costo: el seguro 500 yenes/mo./familia (la mensualidad 500 yenes/mo./familia)
Edad: de 1er curso la escuela primaria hasta 3er curso de la secundaria
Inscripción: Fíjese siguientes detalles a Toobu Koominkan (047-477-7172) por fax: Nombre de estudiante(s), Curso, Nacionalidad, Lengua materna, Nombre de padres, Dirección, Teléfono.
* Los padres tienen que llevar y venir a buscar los alumnos de la escuela primaria.
Información: Director de Chikyuko Project E-mail: khoru@47-468-2948

日時 毎週土曜日 9:45am.~11:45am.
場所 東都公民館2階
費用 保険 800円/年/人
会費 500円/月/家族
年齢 小1~中3
申し込み 子どもの氏名、学年(学年) 国籍、母語、保護者の氏名、住所、電話を書いてファクスして下さい。 東都公民館: 047-477-7172
*小学生は、保護者の送り迎えをお願いします。
問い合わせ 地球っ子プロジェクト代表 浦和 かほる 047-468-2948/090-9292-4481



にほんごきょうしつ 子ども日本語教室

外国から日本にきたり、帰国した子どもたちがいっしょに日本語を学ぶ教室です

Japanese Class for Non-native Children
SALUD-ARALAN SA MGA BATANG NAIS
MAG-ARAL NG NIHONGGO

어린이 일본어 교실
儿童日本語教室
Curso de japonés para niños

AURAS EM JAPONÊS PARA CRIANÇAS
ห้องเรียนภาษาญี่ปุ่นสำหรับเด็ก
Класс японского языка для детей



主催:地球っ子プロジェクト
事務局:東都公民館社会教育関係課
TEL:047-468-2948 文化庁委託
(主催者としての外国人のための
日本語教育事業)
後援:和情市教育委員会
和情市国際交流協会

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	国籍(人数)	取組のテーマ	授業内容	講師又は指導者名	補助者	備考
1	6月30日(土)	1時間	船橋市東部公民館	17	中国 24人、フィリピン 13人、ベトナム 2人、タイ 2人、ウクライナ、バングラデシュ、ボリビア 各1人	余暇を楽しむ	小学校低学年、高学年姉妹・中級、中学校初級、中級、中学3年生6グループに分かれて、それぞれレベルに応じた教材を作成し学習(以下同様)「水族園に行く」ための予備学習1 パンフレットを読む、電車乗り方、時間や連絡方法 など	高松ひろる、船川真子、富田、安部美奈子、市原由美、渡辺孝子、野村由子、片本千枝子、山崎陽子、吉村弘子、矢野陽子、佐藤陽子		教材:「標準的なカリキュラム案」、それらもとづいた自作教材、パンフレットなどの教材、地域スタッフ、グループの仲間など
2	7月7日(土)	1時間	船橋市東部公民館	14	以下、出欠、入会、退会により変動はあるが、基本的に同上	余暇を楽しむ	「水族園に行く」ための予備学習2			以下此次により変わるが基本的に、同上
3	7月14日(土)	1時間	船橋市東部公民館	18		余暇を楽しむ	「水族園に行く」ための予備学習3			
4	7月22日(日)	4時間	葛西臨海水産園	15		余暇を楽しむ	夏休み教室1日目の学習 外出 水族園見学 実体験		3	小林洋子、小林遊子、片本弘子
5	7月23日(月)	2時間	船橋市東部公民館	14		余暇を楽しむ	夏休み教室2日目の学習 水族園見学の再見とまとめの作り		1	小林洋子
6	7月24日(火)	2時間	船橋市東部公民館	15		余暇を楽しむ	夏休み教室3日目の学習 水族園見学のまとめ発表		1	小林洋子
7	9月1日(土)	1時間	船橋市東部公民館	10		安全を守る	道順を言える1 学校と家の位置関係を理解する、道順を言うためのことばを覚える		9	
8	9月8日(土)	1時間	船橋市東部公民館	18		安全を守る	道順を言える2 目印になるものの特徴を言えるようにする		8	
9	9月15日(土)	1時間	船橋市東部公民館	10		安全を守る	道順を言える3 安全に道を歩く 交通規則、道路標識、左右などの方向が言えるようにする		10	
10	9月29日(土)	1時間	船橋市東部公民館	17		健康を保つ	身体の部分の名前を覚える1 病状を伝えるための予備学習 お書き、ワークなど		9	
11	10月6日(土)	1時間	船橋市東部公民館	13		健康を保つ	身体の部分の名前を覚える2 病状を伝えることば、表現を学ぶ		11	
12	10月13日(土)	1時間	船橋市東部公民館	13		日本のマナーにのっとり行動する	生活習慣1 規則、マナーについて		11	
13	10月20日(土)	1時間	船橋市東部公民館	17		日本のマナーにのっとり行動する	生活習慣2 道徳について		10	
14	10月27日(土)	1時間	船橋市東部公民館	16		日本のマナーにのっとり行動する	生活習慣3 共同作業、片付けについて		8	
15	11月17日(土)	1時間	船橋市東部公民館	16		郵便を利用する	「年賀状作り」の予備学習1 宛名の書き方、郵便の出し方、作業手順の理解など		10	
16	11月24日(土)	1時間	船橋市東部公民館	18		郵便を利用する	「年賀状作り」の予備学習2		9	
17	12月1日(土)	1時間	船橋市東部公民館	14		郵便を利用する	「年賀状作り」の予備学習3		9	
18	12月8日(土)	1時間	船橋市東部公民館	16		郵便を利用する	「年賀状作り」の予備学習4		11	
19	12月15日(土)	2時間	船橋市東部公民館	21		郵便を利用する	公民館行事と共催で 年賀状作り(学区参加者25人)、指導者の指示を聞いて、毛筆で漢字を書き、ちぎり絵で飾って、年賀状を完成させる		10	
20	12月22日(土)	1時間	船橋市東部公民館	15		郵便を利用する	「年賀状作り」のまとめと発表学習		9	
21	1月12日(土)	1時間	船橋市東部公民館	15		行事に参加する	「みんなで遊ぼう」の予備学習1		10	
22	1月19日(土)	2時間	船橋市東部公民館	20		行事に参加する	「みんなで遊ぼう」の実体験		11	
23	1月26日(土)	1時間	船橋市東部公民館	18		行事に参加する	「みんなで遊ぼう」のまとめと発表学習		9	
24	2月2日(土)	1時間	船橋市東部公民館	13		健康を保つ	「健康、安全に暮らそう」1 地震から身を守る、インフルエンザ予防、病状を言うなど		11	
25	2月9日(土)	1時間	船橋市東部公民館	22		健康を保つ	「健康、安全に暮らそう」2		10	
26	2月25日(土)	1時間	船橋市東部公民館	18		災害から身を守る	「健康、安全に暮らそう」3		11	
27	3月2日(土)	1時間	船橋市東部公民館	18		人と関わり・自己表現	1年間のグループ別成果発表会の練習1:グループの共同作業と個人の自己表現		9	
28	3月9日(土)	1時間	船橋市東部公民館	22		人と関わり・自己表現	1年間のグループ別成果発表会の練習1:2		10	
29	3月16日(土)	1時間	船橋市東部公民館	23		人と関わり・自己表現	1年間のグループ別成果発表会 質疑、答、寸劇、他己紹介など		11	

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

標準的なカリキュラム案を用いた授業のうち、研修会のワークショップで教材作りを練習し、テキスト作成につながった実践実習から2例を報告する。

(9)-1. 夏休み教室

例年行っているテーマ型・活動型学習を今年度も市内公開で行った。教材作りを視野に入れ、プログラム作成段階から「標準的なカリキュラム案」の「生活上の行為の事例」をもとに、計画を立てた。

テーマ: 余暇を楽しむ……「水族園に行こう」

目標：仲間と計画を立てたり、電車に乗って水族園に行ってみることができるようにする。さらに、体験を言葉や形にして再現することができるようにする。

実施日時：H24年7月22日（日）、23日（月）、24日（火） 3日間 午前中

対象：地球っ子プロジェクトの「子ども日本語教室」の学習者および、市内小中学校に配布したチラシ（添付参照：五カ国語で翻訳）を見て申し込んだ参加者（3日間の総参加者数26人）

プログラム実施内容：

【6月30日、7月7日、7月14日（土）】

当会学習者が通常の教室で予備学習を行った。指導者が下見をして入手したパンフレット、園内の案内地図、クイズ、迷子札、電車の時刻表などを用い、各グループのレベルに応じた達成目標を設定して学習した。さらに全員に、集合時間・場所、遅れたり、休む場合の対応を個人カードに書いて確認した。

【7月22日（日）】 「葛西臨海水族園に行く」

- ・子どもの参加者：当会15人・外部参加者5人 計20人
- ・指導者の数：当会6人・外部3人 計9人
- ・当日は、電車が事故で不通になるという体験も加わったが、保護者に電話連絡をし、迎えの時間を調整した。切符を買う練習（写真）もし、無事に全員水族園に集合し、1時間遅れで水族園での活動を始めることができた。園内ではグループ毎に、計画したコースを歩き、記録におさめる作業を行った。

【7月23日（月）】 「水族園の体験をまとめる」

- ・場所：東部公民館
- ・子どもの参加者：当会14人・外部参加者6人 計20人
- ・指導者の数：当会7人・外部1人 計8人
- ・グループ毎に、話し合いながらまとめを行った。見てきた魚の分類をする（写真）、係員に質問し、メモをとった内容を模造紙にまとめる、動物の工作や、写真でジグソーパズルを作り、撮影記録を書くなど。

【7月24日（火）】 「まとめを発表する」

日本語であそぼう・まなぼう ふなばし2012



外国から来て日本語を学んでいる子と日本の子が、いっしょに活動する夏休み教室（小中学生）

7月22日（日） 葛西臨海水族園 10:00 - 1:00 集合：東部公民館（※平日）9:00またはJR西船橋駅改札外 9:15 西船橋からJR京葉線 9:30の電車に乗ります
7月23日（月）、7月24日（火） 9:45 - 11:45 東部公民館 講堂 水の動物について学ぶ 写真/パネル、スケッチ、分類、比較など 水族園での体験のまとめと発表、交流会
参加費：保護料800円、水族園入園料（小学生無料、中学生250円、保護者同行の場合 一般700円）、交通費実費 持ち物：22日（お弁当、水筒） 23、24日（筆記用具、水筒）

★申し込み方法

申込書と東部公民館へファクスで送って下さい。

さい。 Fax (047) 477-7172

主催：地球っ子プロジェクト

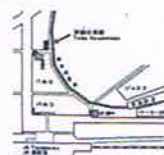
2014年度文化庁委託事業

東部公民館社会教育課保護課

協賛：船橋市教育委員会

船橋市国際交流協会

お問い合わせ：代表 渡辺ひさる 047-468-2848, 090-9292-4481



- ・場所：東部公民館
- ・子どもの参加者：当会9人・外部参加者5人、計14人
- ・指導者の数：当会9人・外部1人 計10人
- ・作成した物を、自分の声で発表、表現する活動を行った。



(9)-2. 冬休み教室

当会は、船橋市東部公民館の利用者協議会会員として、毎年公民館事業であるハッピーサタデーの企画開催に協力している。昨年好評だったため今年度も「年賀状作り」（添付チラシ参照）を企画した。この機会を利用し、「公民館事業に参加して指導者の指示を理解する」「日本文化の一つとしての年賀状という挨拶の手段、郵便の出し方」などを学ぶ教材作りと実践実習を行った。

日時： H24年12月15日 9:30 - 11:45

場所： 船橋市東部公民館

参加者数： 当会の子ども 21人、公民館管区の子ども 25人、保護者数名

指導者数： 当会会員10人

実施内容： 当会の子どもは、11月17日、24日、12月1日、8日の通常教室で、年賀状作りまでの予備学習を行った。案内チラシの読み方、申込書への記入、年賀状とは何か、干支について、宛名や差出人の書き方などを学んだ。



平成24年度「ハッピーサタデー」事業

年賀状作り

[内容] 習字と切り絵で年賀状を作ろう

パソコンルームの中、味わいのある年賀状を手作りませんか、
お父さん、お母さん、兄弟の参加も歓迎です。

日時： 平成24年12月15日(土)
午前9時30分～11時45分

会場： 東部公民館 4階 講座

参加費： 無料

対象： 小学1年～6年生(3年生以下は保護者が確認してください)

申込み： 12月8日(土)午前9時30分から受け付けます。

定員： 先着順 30名 (電話でも受け付けいたします。)

持ち物： 普通用の筆、文房(ひげれば良しです)
官製年賀状書5枚程度(白紙の書き用紙でなければなりません)
画でよければよい(画用紙またはエフロンシート)

*問い合わせ：東部公民館 電話(477)7171です

12月のハッピーサタデー参加申込み書

(年賀状作り)

参加者名 _____ (小学1年 年 月 女)

住所 _____ 電話 _____



模造紙の内容

1) 漢字の習字を優先する人

1. 好きな漢字を練習して書く
2. 空いているところにへびの線だけを引く
紙、胴、しっぽがつながってなくても良いです／切れていても良いです
3. 好きな色の和紙を選びます。
4. へびの線に沿ってのりをつけます。
5. 和紙を水でぬらして、少しずつちぎって、線の上に貼ります。
6. このとき、あたまの方を太く、丸く、尻尾の方を細くします。
7. 赤の和紙で舌をちぎってはります。
8. 同じようにちぎりながら、他の色の和紙で模様を貼ります。

2) へびの形と漢字を組み合わせてデザインしたい人（見本を参考にしてください）

1. はがきを見て、漢字の大きさとへびの大きさ、位置を考えます。
2. 漢字を練習します。
3. へびの線を書きます。
4. 漢字の位置に漢字を消書きします。
5. 1)の3～8までと同じようにへびのちぎり絵を作ります。

(10) 目標の達成状況・成果

夏休み教室について、指導者のグループリーダーが報告書を提出したので、以下それらを抜粋して報告する。

・中学高校生男子グループ6人（報告：宮）

具体的目標は、「外出時の対応ができる」「計画を立てて実行できる」とした。遅刻の電話、現地での合流などができたことは予備学習の成果といえる。道を間違えた時、他人に聞こうとしなかった、切符を間違えて買ってしまった時、駅員に換金を頼まなかったなどが観察された。これらは次回の準備学習の参考になった。水族園の観察記録については表現力不足が感じられたが、同年代の日本人にも見られることなので、甘えによるものかどうかの判断が難しかった。

・小学生高学年グループ5人（報告：野村）

水族園で係の人に質問することができた。見学のまとめのために、写真をプリントしてくるという体験も臨時で加わったが、指示に従って操作することができた。1日目には個々で行動しがちだったが、2日目には作業を手伝い合う光景も見られた。3日目の発表では、1番目の発表者に刺激され、全員声に出して発表することができた。課題としては、指導側が言語指導と施設見学を実際に楽しんでもらう気配りとの比率で苦勞し、予定していたワークシートの記入に時間が十分とれなかったことなどがあげられる。

・小学生低学年グループ2人（報告：吉村）

具体的目標は、「海の生き物を観察し、スケッチする」「迷子になってしまったときに対応できる」とした。低学年の子どもたちにとって、実体験で学ぶ表現の多いことに気付いた。「次にいきます。」「ここで待っています。」など当日何度も発せられた指導者のことばを繰り返して覚えていた。また、見学者の前に割り込んで行けない、他人の前を横切るときには「すみません。」というなどのマナーを学ぶことができた。迷子時の対応を使う場面はなかったが、実際の場面を想定して練習しておくことは必要だと感じた。

その他の授業については、教材作りとの関連で、実践実習において、成果はそのまま採用し、改善点は反省に基づき教材を改良したことに反映されている。

(11) 改善点について

改善点は成果と同時に発生するものなので、(10)の成果の中で報告した。全体的には、場面中心、活動型の授業を多く取り入れた運営は、年少者の言語学習に効果が大きいと思われる。しかし、同時に偶然発生的な、現場において初めて発見される言語行動も多く、それらを言語学習として効果的に取り入れていく能力も指導者側には必要であることがわかった。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

- (1) 講座名称：日本語を学ぶ年少者のための場面中心タスクと教材の作り方
——タスクを持ち寄り、教材作りを实践する——
- (2) 目的・目標：
- (3) 対象者：地球っ子プロジェクトの指導者会員及び市内・近隣の実際年少者を対象に授業をおこなっている指導者
- (4) 開催時間数(回数) 23時間 (全 10回)
- (5) 使用した教材・リソース

標準的なカリキュラム案ガイドブック、同教材例集、『DVDで学ぶ日本語エリンが挑戦!にほんごできます。』、市役所こどもホームページ、研修のための準備実習で作成したフォームなど。

- (6) 受講者の総数 14人
(出身・国籍別内訳 日本14人)
- (7) 受講者の募集方法

第一回研修会は、チラシを作成し、房総日本語ボランティアネットワークメーリングリスト、近隣の子どものための日本語教室主催者、船橋市の学校派遣日本語指導協力員、船橋市国際交流協会主催成人のための日本教室委員会にメールで案内。第二回研修会は「タスクを選び実際に教材を作成するワークショップ」とし、第一回研修会参加者対象とした。また実習8回は地球っ子プロジェクトの指導者で行った内、1回目の研修会のために準備した夏休み教室に関わる実習と、冬休み教室のための教材作成とし、2回の研修で齋藤ひろみ教授の指導が行われたものとした。

2012.10.19

平成24年度 文化庁委託事業
地球っ子プロジェクト主催 研修会のご案内

「日本語を学ぶ年少者のための場面中心タスクと、教材の作り方」
—— タスクを持ち寄り、教材作りを实践する ——

目的 文化庁が提案している「標準的なカリキュラム案」では「生活上必要であることが言語学習につながる」を念頭に日本語を指導することがのぞましいとされています。本研修会では、日本語を学ぶ年少者が日本で生活するために必要となる場面を選び、課題を遂行できるようにするための日本語学習教材とはどんなものかを学び、実践につなげます。

講師 東京学芸大学 齋藤ひろみ 教授

日時 平成24年11月17日(土) 14:00 ~ 16:30

場所 船橋市東部公民館 2階 会議室1

参加費 無料
定員 約20名

※参加希望者へのお願ひ：現在支援・指導されている子どもたちを対象に、日本語を学んで欲しいと思われる場面と、その場面で必要となる言葉の課題をお持ち寄りください。この研修は、それをどう教材に結びつけるかを齋藤先生にアドバイスをいただきながらワークショップ形式で進めていきます。対象がない方は、地球っ子プロジェクトのグループに入って、いっしょに考えていただきます。

申し込み・問い合わせ 地球っ子プロジェクト代表 浦和なほり まで
メール kurawa@tk9.so-net.ne.jp
ファックス 047-468-2948

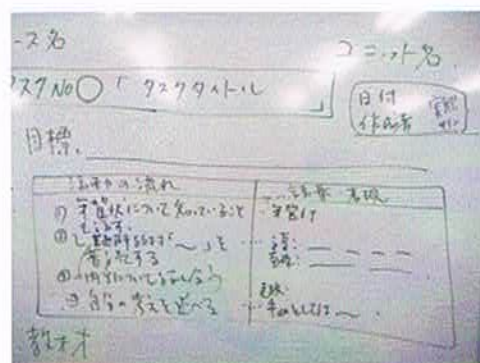
(8) 養成・研修の具体的内容

回(※)	開催日	時間数	受講人数	会場	内容
①	7月7日(土)	1 時間	10 人	船橋市東部公民館	「施設見学ができるようにする」をテーマにした実習1
②	7月14日(土)	1 時間	7 人	船橋市東部公民館	「施設見学ができるようにする」をテーマにした実習2
③	7月22日(日)	4 時間	11 人	船橋市東部公民館	「夏休み教室で葛西臨海水族園に行く」の教材実践実習1
④	7月23日(月)	2 時間	9 人	葛西臨海水族園	「夏休み教室で葛西臨海水族園に行く」の教材実践実習2
⑤	7月24日(火)	2 時間	9 人	船橋市東部公民館	「夏休み教室で葛西臨海水族園に行く」の教材実践実習3
⑥	11月17日(土)	5 時間	10 人	船橋市東部公民館	齋藤ひろみ教授研修会1「場面中心タスクと教材の作り方」標準的なカリキュラム案の考え方を学び、教室活動に適したテーマを選ぶ
⑦	11月24日(土)	1 時間	9 人	船橋市東部公民館	「地域社会に参加する」をテーマとした実習1 行事の内容を知るための日本語とは
⑧	12月1日(土)	1 時間	9 人	船橋市東部公民館	「地域社会に参加する」をテーマとした実習2 指導者の指示に従うための日本語とは
⑨	12月8日(土)	1 時間	11 人	船橋市東部公民館	「地域社会に参加する」をテーマとした実習3 自分の考えを言うための日本語とは
⑩	12月15日(土)	5 時間	10 人	船橋市東部公民館	「地域社会に参加する 年賀状作り」をテーマとした実践実習 及び 齋藤ひろみ教授研修会2「場面中心タスクと教材の作り方」ワークショップ

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

第一回研修会では、標準的なカリキュラム案の教材例にある、授業の流れについての講義を受けた(写真左)。持ち寄ったタスクを発表し合い、今年度取り上げることができるテーマを4つ選んだ。標準的なカリキュラム案について研修参加経験のある当会メンバーが勉強会を前もって開き、作成したフォームに基づき実施した夏休み教室について、齋藤ひろみ教授よりアドバイスをいただいた。また次回の研修会までに実施する年賀状作りについて、フォームの訂正とアドバイスをいただいた(写真右)。

第二回研修会では、齋藤教授に実際の年賀状作りの活動を見学していただき、授業の進め方について具体的なアドバイスをいただいた。子どもの年齢別・レベル別グループ毎の教材例を担当ごとに作成・発表し、それについて齋藤教授にアドバイスをいただいた。



(10) 目標の達成状況・成果

2回の研修会と実践実習は、日頃行っている活動型・場面型授業を取り出して、継続的な使用及び汎用性のある教材として可視化することが目標であった。研修、実習参加者は、実習でアドバイスをいただいたもの以外の授業でも、「健康・安全に暮らす」「行事に参加する」などのテーマについて、自ら考えた教材を作成、実践することができた。

(11) 改善点について

研修会のテーマとした、「場面型タスクの持ち寄り」は、会の発足時から毎年夏休み教室でテーマ型・活動型授業を行っていた地球っ子プロジェクトの指導者にとっても難しい課題であった。難しさの理由は、言語指導の部分を抽出することにあっただろう。一つの場面をとっても数多くの言語行動が含まれているため、すべての言語行動を可能にする授業を目指す、かなり量的に多い時間数と教材となる。今後は生活課題遂行のために必要最小限の言語学習の項目をおさえる方法を学ぶ必要がある。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

- (1) 教材名称 テーマと活動で学ぶ日本語--ファイル形式の教材
- (2) 対象 日本語を学ぶ必要のある小学生、中学生
- (3) 目的・目標 具体的な生活課題を遂行できるようにする
- (4) 構成 ユニット(目標タスク)とコース(対象者)を選べるファイル形式

各ファイルの構成(作成時現在)

- ユニット1 余暇を楽しむ「水族園に行こう」
- ユニット2 年賀状の習慣を知る「年賀状を作って送ろう」
- ユニット3 行事に参加する「みんなで遊ぼうに参加しよう」
- ユニット4 健康・安全に暮らす(1)「インフルエンザについて知ろう」
- ユニット4 健康・安全に暮らす(2)「災害や事故から身を守ろう」

*各ユニットのファイルには、生教材、作成したワークシートなどをファイルしておく。

各ユニットの構成(作成時現在)

コースの設定：年齢別・レベル別対象者

- コース1 小学校低学年
- コース2初 小学校高学年 初級
- コース2中 小学校高学年 中級
- コース3初 中学校 初級
- コース3中 中学校 中級

各コースの内容

- 1) 指導ノート ユニット全体の流れと授業時間、目標
- 2) 小タスク1 各ユニットの目標課題のイメージ作り
- 3) 小タスク2 目標課題を遂行するために必要な言語活動1
- 4) 小タスク3 目標課題を遂行するために必要な言語活動2
- 5) 小タスク4 目標課題を遂行するために必要な言語活動3
または発展活動

(5) 使い方

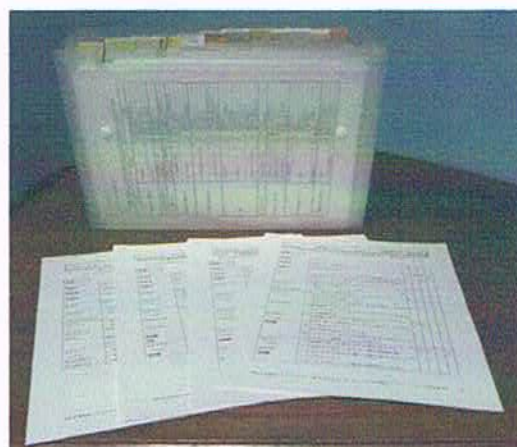
指導者は、必要と思われるタスクの内容（ユニット）を選び、担当するグループの年齢、日本語のレベルに応じたコースのファイルを選ぶ。ファイルされたテキストを指導ノートを参考にして授業を構成する。同じユニットで、異なる活動を行った場合は、その都度改訂版を追加していく。同様に新しくユニットを作成した場合もファイルに追加する。生教材、ワークシート、応用例などをファイルに保存していく。ファイルは他の指導者と共有し、再利用できる教材を増やしていく。

(6) 具体的な活用例

上記のユニット1～4に関しては、今年度の各教室活動で実施したので、教室の設置・運営の報告にある、夏休み教室「余暇を楽しむ、水族園に行こう」（ユニット1）、冬休み教室「年賀状の習慣を知る、年賀状を作って、送ろう」（ユニット2）に報告した。

当初 B6 の情報カード形式にしたが、実際に使ってみて A4 サイズの方が教材として使い易いとの意見があり、ファイル形式に変更した。

(7) 成果物の添付 教材本体は別添（作成したファイル：写真参照）



8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

「子ども日本語教室」を開催し、外国人児童生徒（日本語を母語としない児童生徒）が、よりはやく日本の生活に慣れ、学校生活や、地域社会に参加できるよう日本語学習の支援を行う。指導者は、通常の活動に加え、標準的なカリキュラム案を「年少者のための生活日本語」に応用し、より効果的に目標が達成できるよう、実践をしながら、指導内容を研究し、教材を作成する

(2) 目標の達成状況・事業の成果

これまで行ってきた日本語の初期指導に加え、本業務を受託することで、具体的な生活のための日本語指導について、特化して研究、実践することができた。教材も数例作成できたので、今後の指導に役立てることができる。子どもたちにとっても、活動を通じて助け合い、自己表現をする機会を得られたことは、大きな自信につながったようである（教室の設置・運営の報告にある夏休み教室の報告を参照）。新たに課題も可視化できたので、今後の指導の改善につながる。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

研修会でカリキュラム案の使い方を学んだことで、従来の日本語のテキストとは異なる、具体的な生活課題遂行のための日本語指導という視点で教室運営することができた。これは、年少者が学校生活で自然に身につけていく日本語を体系づけるための指導と並行して、学校外での生活、学校では学ぶ時間がない課題について学ぶ材料になる。地域の支援者による団体として大きな役割だろう。

標準的なカリキュラム案の使用に関しては、多くの項目が「取り上げる生活上の行為の事例」として細分類されているが、実際は複数の項目が複雑に組み合わせられて言語活動が行われていることがわかった。これは教材作成を困難にした一因でもある。分類は大いに参考になるが、今後は、より実践的で自由な活用をしていきたい。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

船橋市教育委員会の後援：転入窓口に当会の案内チラシをおいていただくことで、未就学児童・生徒以外ほぼ全員に当会で日本語を学ぶ機会があることを知らせることができた。これは当会の広報の負担の軽減に大きな支えとなった。また、市内全小中学校の国際理解担当の教員に当会の活動を説明する機会もいただいたことで、外国人児童・生徒の日本語指導が学校以外の支援について理解していただけたと思う。

船橋市東部公民館の協力：公民館の社会教育関係団体としてだけでなく、長年当会の活動に理解をいただき、教室の場所の年間確保を引き続きしていただいていることは大きな支えとなった。

船橋市国際交流協会の後援：協会会員である成人の日本語教室の指導者の協力は、日本

語指導の経験が行事の際に生かされた。また、児童・生徒の転入時に、忙しい保護者にとって念頭になかった日本語指導の機会を、後日の問い合わせに対して当会のチラシを配布して紹介していただいた。長年の後援により、当会に対する理解も深めていただき、来年度は協会に組み入れていただける方向で話し合いが行われた。

(5) 改善点、今後の課題について

今年度の当会の在籍者数40名以上を見ても、今後も当会のような地域の日本語支援団体の役割は大きいと考えられる。個々の児童・生徒に対する学校での日本語指導も年々充実してきていると思われるが、支援側のノウハウの蓄積という面では定期的、継続的に活動できる支援者と、それをまとめる組織が必要だと思われる。より当会の指導者の時間的、経済的負担の少ない運営によって、指導に専念できる環境が望まれる。国際交流協会の組織に入ること、それらが達成されることが期待される。

(6) その他参考資料

平成24年度中に当会の活動が紹介された文献を参考にあげる。特に『イマ×ココ 創刊準備号』には、当会が発足当初から指導いただいている齋藤ひろみ教授に当会のテーマ型・活動型学習の実践を紹介する機会をいただいた。

『日本語教育ジャーナル 2012 冬号』アルク P.30、『言語教育実践 イマ×ココ』ココ出版 PP.20-24、『千葉における多文化共生のまち作り』エイデル研究所 房総ボランティアネットワーク編 PP.248-255